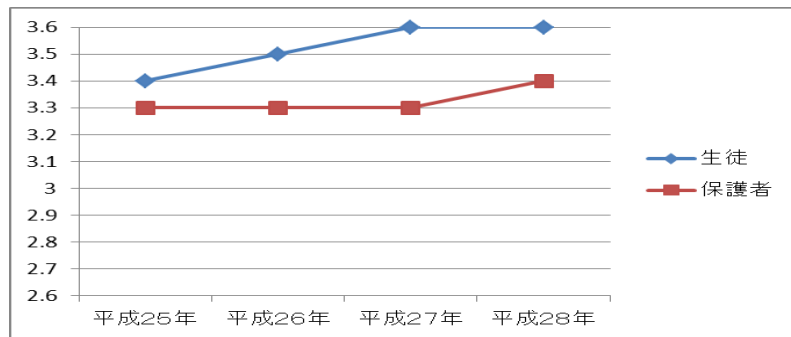


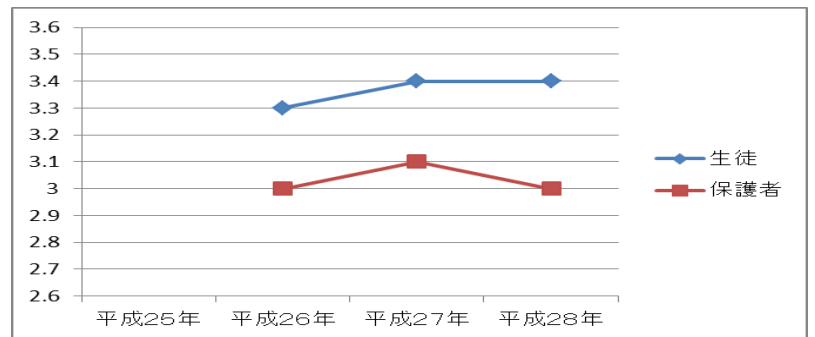
—学校評価の集計結果について(後篇)—

前号に引き続き、学校評価の経年変化(4年間)を見ていただきます。

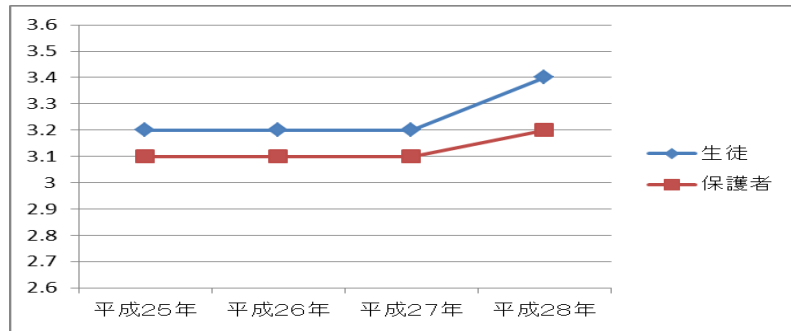
10 充実した学校生活



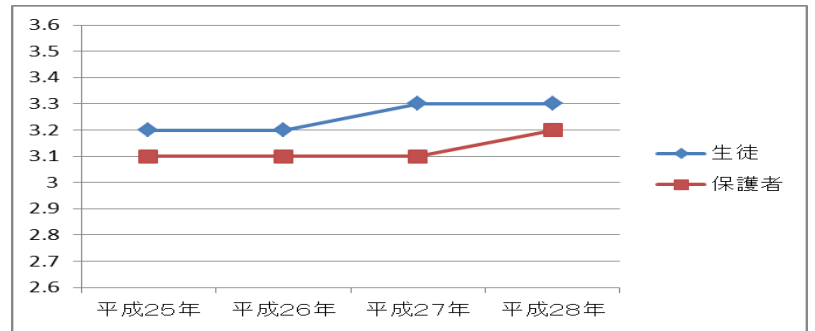
11 充実した学校生活②(あいさつ)



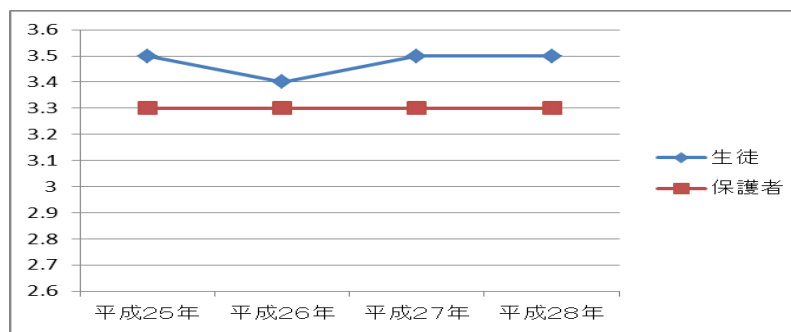
12 生徒指導上の問題への対応



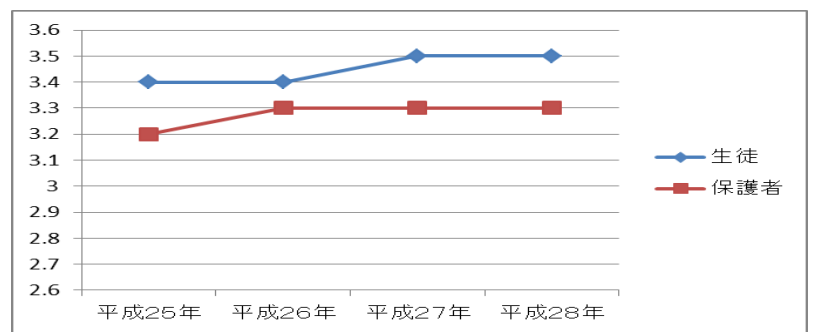
13 カウンセリングマインドに基づく生徒との関わり



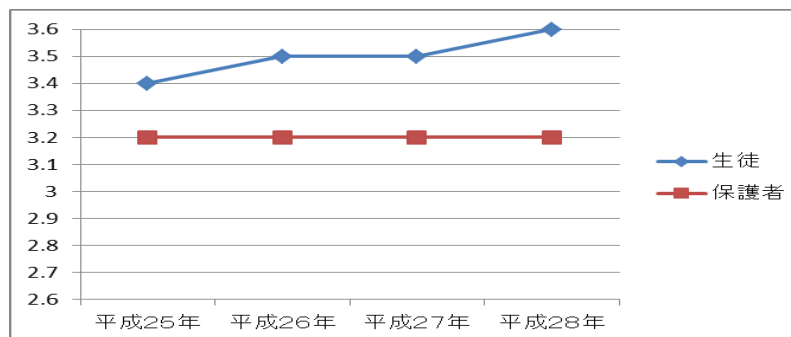
14 部活動の充実



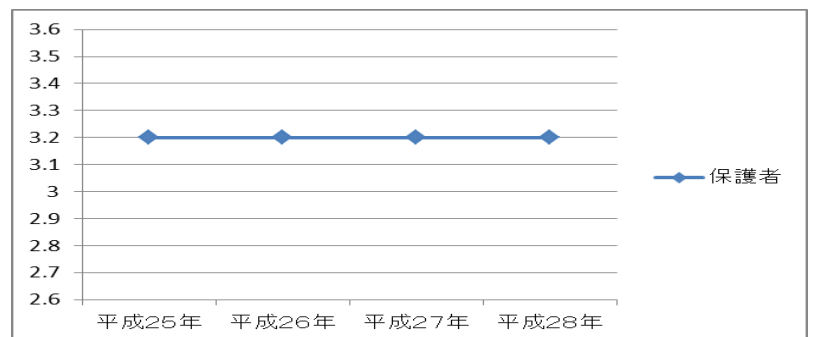
15 保護者や地域の人たちとの連携



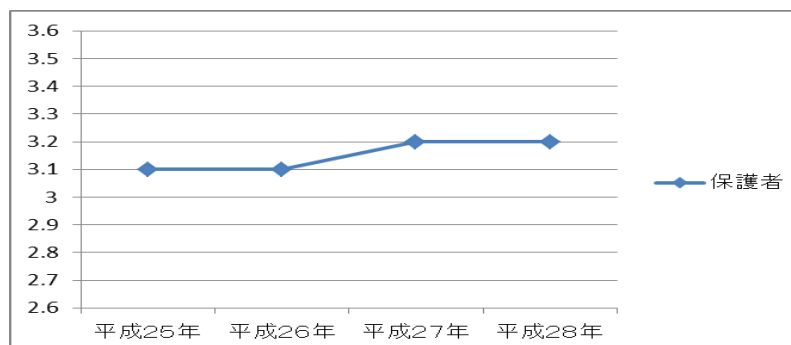
16 危機管理体制(安全対策)



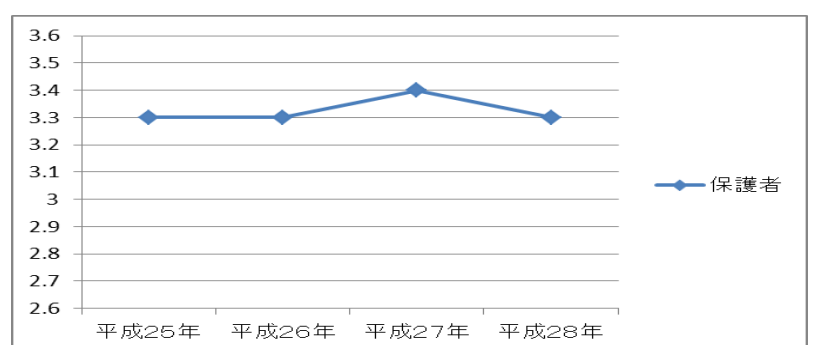
17 情報発信の努力



18 情報受信の努力



19 教職員の対応(接遇)



<ここまでの評価から>前篇と同じく、ほとんどの評価は、前年を上回るか現状を維持している結果になっています。特に、「10 充実した学校生活」は、生徒に“学校生活は楽しいと思うか”、保護者に“生徒は学校生活を楽しく過ごせるようになってきたと思うか”という設問についての評価であり、「12 生徒指導上の問題への対応」は、生徒に“先生は、いじめや暴力などの問題にきちんと対応してくれると思うか”という設問についての評価です。ともに数値が上昇していることは、多くの生徒が概ね気持ちよく過ごしていると分析しています。「16 危機管理体制(安全対策)」は、生徒に“安心して学校生活を送ることができると思うか”という設問についての評価であることから、安心安全な学校づくりに向けての成果と捉えています。今後の課題としては、評価が横ばいとなっている情報の発信について、学校の発信が家庭にうまく伝わるようさらに工夫が必要と考えています。

※「和学鍛」はホームページにも掲載いたします。